

### (3) 2030年冬季オリンピック・パラリンピック大会招致について

次に、2030年冬季オリンピック・パラリンピック大会招致について伺います。

当初、2026年冬季オリ・パラ大会の招致に向け、2016年5月に開催概要計画が札幌市から示され、後に、IOCとの対話ステージにおける協議が進められる中、胆振東部地震の発生を受け、2026年の招致から2030年へと計画変更されております。

今年に入り、1月29日にはJOC日本オリンピック委員会は2030年冬季オリ・パラ招致を目指す札幌市を国内立候補地として承認。

国内候補地が札幌市に決定したことを受け、2月13日には道内関係者による意見交換会が開催、招致に向けたスケジュールでは、最短で2021年6月のIOC国際オリンピック委員会総会で開催地が決まる可能性などについても説明されたとマスコミ報道されております。

私の地元においても、スピードスケート競技が『明治十勝オーバル』で開催されることが想定されていることから、『北海道・札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致を応援する会』を設置し、帯広開催を応援する立場として、十勝住民の五輪に対する機運を高め、おもてなしの受け入れ準備を行っております。

また、スピードスケート競技会場に想定されている『明治北海道十勝オーバル』では大規模改修は行わず、現在の施設規模のまま配置を工夫するなどして、3,000席を確保する方法を模索しています。

当初、2026年冬季オリ・パラ大会の招致を目指した際には、10年前の2016年に開催概

要計画が出されたことから、2030年冬季オリ・パラ大会に向けても、10年前にあたる今年度開催概要計画が示され、しっかり準備に向かわなければならない大切な年であったと考えますが、世界中でコロナウイルス感染症が拡大し、東京2020大会が1年間延期された影響から、2030年冬季オリ・パラ大会へ向けた招致活動の動きが止まっている状況であります。

2030年冬季オリ・パラ大会招致は札幌のほか、ソルトレークシティ、バルセロナが有力視されております。

北海道としても、しっかりサポートする立場にあると考えますが、現状認識と今後の取組について道の見解を伺います。

**(答弁：知事（環境生活部スポーツ局スポーツ振興課オリ・パラ連携室）**

・JOC理事会において、札幌市が国内開催候補地に決定されたが、新型コロナウイルス感染症の拡大や東京大会の延期の影響から、想定していた招致活動を進められていない状況であり、今後のIOCの動きを注視するとともに、招致に向けた機運を高めていくことが必要。

・道としては、東京大会のマラソン・競歩・サッカーを感染症への万全の対策の下で、安全で安心なオリンピックとして開催できるよう、準備を進め、道民の皆様に、スポーツが持つ力や魅力を感じていただくとともに、北海道の魅力を世界に発信していくことにより、その成功を2030年承知の実現につなげて参る。